れ一つの言語理論（linguistic theory）であり，言語という神秘的なまでに膨大な現象の前にあっては，決してそのすべてを解き明しえないのではなかろうか。

われわれ英語教師もお互いに日々の指導に問題意識をもち，自己研鑽につとめ，情報を交換しあい，よりよい英語教育の実践に努力していきたいものである。

「日本の音楽」（民謡・わらべうた）の取り扱い

第1研修部　佐　藤　政　夫

近来伝統的な日本の音楽が重視されてきた。小・中・高の指導要領にもそれぞれその重要性がのべられ，特に来年度から実施される中学校の指導要領には，日本の音楽について強くうちだされている。

自国の伝承音楽を貴重な文化財とし，さらにそれを近代化し，今日的嗜好に合うように努めるのはヨーロッパ各国をはじめとして全世界的傾向にある。わが国においても音楽教育がはじまって80年，長調・短調の洋楽一辺倒で今日にいたったが，最近音楽文化の面でようやく「日本人の，日本人による，日本人のための音楽」の必要性に目覚めてきた。これは明治以来文化的にも経済的にも資源を外国に求めて発展してきた日本が，こと音楽の資源はわが国に豊かにあることに気づいたことにもよると思われる。

現在日本の音楽，とりわけ日本民謡を取り扱う場合，最初にうける抵抗は，生徒のもつ日本民謡への印象である。日本民謡といえば大人の酒席の歌であるという印象が，嘶ことばにふざけた態度をとる。ここに洋楽の場合と違った指導上の工夫が必要となる。

教師の意識と日本民謡の構成要素

日本の音楽の取り扱い上大切なことは，第一に教師の日本の音楽に対する意識であり，即ち民謡・わらべうたの意味と教育的価値をじゅうぶんに自覚することである。第二に日本の音楽の内容の核心を明確につかみ，具体的な方策を検討することで即ち民謡・わらべうたの構成要素をとりだし，洋楽と違う特長を洋楽を指導するように確信をもって取り扱うことである。

(1)　民謡・わらべうたの意味と教育的価値

民謡・わらべうた・民舞はたとえば野山に茂る草花のようなものである。それは大地と太陽の恵みを受けて咲き誇るのである。それぞれの民族の音楽へのあこがれは，民謡として歌いつがれ，民舞として踊り伝えられた。それらの中には風土と民衆生活の強いかおりが漂っている。民族音楽には地方の風俗・習慣・伝説などが密接に結びついているから，郷土への愛着をそそるとともに，その素朴で，自然な表現は他国の人々を強く引きつけてやまない。このように民族の生き続けてきた社会生活の場に根をおろし育った民謡・わらべうたは民族の心の伝統であり，人々に愛郷心と文化への尊敬心をたかめ，人間に平等と尊厳を教えるものである。
（ユネスコ・民主主義民族芸術思潮より）

(2)　日本民謡・わらべうたの構成要素

①　音　階

日本音楽構成要素の先ず一番にあげられることは，陽旋法と陰旋法である。（中学校指導要領では陽音階・陰音階）この音階については長音階・短音階同様に成りたちを理解して取り扱う必要がある，この二つの音階は江戸時代に民間に流布した二大旋法であり，日本民謡・わらべうたを取り扱うにはこの音階の成りたちをじゅうぶん理解し理解させることにより児童生徒の心に訴えることができる。

では陽旋法の成りたちとは，イ音を基音とした第1図の音階であり，イ調陽旋法（音階）とよび，ト調陽旋法とはよばない。また陽旋法の基音は（レ）である。陰旋法は江戸時代に八橋組がつくられ平調子とよばれていたのがのち陰旋法（音階）とよばれるようになり，第2図の音階である。ホ調陰旋法とよび基音は（ミ）である。この二つの旋法は対照的であり，陽旋法は単純・素朴・野趣であるのに対し，陰旋法は優雅・繊細・陰気である。教材について長調・短調の曲とわかるように，日本民謡・わらべうたについてもどちらの旋法でできているかを聞き分けられることが必要である。

②　旋　律

日本の音楽は日本旋法の隣りの音隣りの音へと音列を順次進行し，音列をとぶときは「さきうめ」「あとうめ」ということがある。陽音階において完全終止はレであり半終止は属音のラである。陰音階においてはミが完全終止，属音のシが半終止である。つぎに慣用句（ミド・シラ・シラファミ等）が日本音楽の大きな特長で各教材の中で，この慣用句を見定めて取り扱う必要がある。

③　リズム

中学校の指導要領に「拍節的でないリズム」とでているがこれは洋楽のホモフォニーとかポリフォニーなどとならべてヘテロホニーと解釈される，これは慣用句とともに日本音楽の特長で第3図のようなリズムである。